



Data 2021-139

監督・脚本: アルチュール・アラリ
 出演: 遠藤雄弥/津田寛治/仲野太賀/松浦祐也/千葉哲也/カトウシンスケ/井之脇海/足立智充/吉岡睦雄/嶋田久作/伊島空/森岡龍/諏訪敦彦/イッセー尾形

👁️👁️ みどころ

1974年2月、フィリピンのルバング島で小野田少尉を発見！「世界の国からこんにちは」の歌声の中で1970年の大阪万博を終えた日本は、高度経済成長の真ただ中だ。そんな時代に、あの軍服姿を見て日本中がビックリ！

もっとも、30年間の落差と違和感是我々より彼の方が大きかったはず。陸軍中野学校出身の「007」として、「戦陣訓」とは異質の“任務”に邁進していた小野田少尉にとって、帰国後の日本は一体何だったのだろうか？

帰国後、半年を経て、ブラジルへ移住した彼の心境は？さらに、91歳まで生きて、さまざまな活動を続けた彼の意図は？

そんな興味深い男の人生を、フランス人監督が174分の長編映画として描いたことに拍手！

—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*

■□■小野田寛郎少尉が『ONODA』としてカンヌに登場！■□■

2021年の第74回カンヌ国際映画祭の「ある視点」部門のオープニング作品としてフランス人監督によるフランス・ドイツ・ベルギー・イタリア・日本合作『ONODA』が登場！

“ONODA”とは、旧陸軍少尉小野田寛郎（ひろお）のことだ。太平洋戦争の終末期に“ある極秘任務”を与えられてフィリピンのルバング島に渡り、終戦を知らないまま島内で日本軍兵士としてずっと任務を遂行していた小野田が帰国したのは、1974年。私が弁護士登録した年だが、その報道には驚かされた。

そんな小野田に、なぜかフランス人監督のアルチュール・アラリが関心を持ち、日本人俳優を起用し、全編日本語で『ONODA』を監督することに。2021年10月の今、世界情勢が混沌とする中、「敵基地攻撃能力」をはじめとする軍事上、安保上の論点があしずつ議論されているが、そんな時、小野田少尉の稀有な体験と物語は参考になるはずだ。

■□■陸軍中野学校は“落ちこぼれ”を採用？■□■

陸軍中野学校とそこで養成された“日本版007”をカッコよく描いた映画が、市川雷蔵主演の『陸軍中野学校』シリーズだった。本作導入部は1974年。たった一人でルバング島に赴いた冒険家(?)の鈴木紀夫(仲野太賀)が小野田少尉(津田寛治)を捜索するストーリーが描かれる。

何とも興味深いそんな状況が提示された後、スクリーンは一転して、若き日の小野田(遠藤雄弥)に対して、陸軍中野学校の谷口少佐(イッセー尾形)が入学を進めるストーリーになっていく。小野田は高所恐怖症のため飛行兵になれず落ち込んでいたが、谷口はそんな小野田を「お前は生き延びる能力がある」と評価。その結果、小野田は陸軍中野学校二俣分校で約3カ月の厳しい“遊撃戦(スパイ養成)”の訓練を受け、それを少しずつマスターしていくことに。

旧日本陸軍の戦陣訓では「生きて虜囚の辱を受けず」が有名だが、小野田は「君たちには死ぬ権利はない。」と命じられたうえ、「援軍部隊が戻るまでゲリラ戦を指揮すべし」との任務が与えられることに。彼がフィリピンのルバング島に派遣されたのは1944年12月。敗戦の8か月前だから、さあ、日本軍と彼の運命は？

■□■本作は2時間54分！さまざまなエピソードがたっぷり■□■

2015年に「戦後70年記念作品」として公開された塚本晋也監督の『野火』(14年)『シネマ36』22頁)は興味深い映画だったが、同作は87分とコンパクトだった。それに対して、本作は何と2時間54分の長尺になっている。本作の撮影はカンボジアのジャングルの中で、2018年12月から約4ヶ月間続けられたそうだ。

『野火』では飢えの中で人肉を喰らうエピソードが強烈だったが、本作中盤では、小野田を隊長とする小塚金七上等兵(千葉哲也)、島田庄一伍長(カトウシンスケ)、赤津勇一等兵(井之脇海)の4人がジャングル内で任務を遂行していくエピソードが盛りだくさんに描かれる。そしてそこでは、赴任当初は「経験不足」と馬鹿にされていた小野田隊長の適切な指揮ぶりが目立っている。しかし、それでも「戦争は終わった」というマイクの声信じて投降したり、現地人との戦いで死亡したり、一人また一人と部下を失っていった小野田はとうとうたった一人に。

それでも俺は・・・彼の帝国軍人としての意思は強く、肉体の強度も十分保っていたが、導入部で登場した鈴木をみて、さあ、小野田少尉はどうするの？

■□■30年は長い！日本とルバング島の落差は？■□■

第二次世界大戦で「三国同盟」の一員として敗北したドイツには、日本の「東京裁判」と同じ(?)「ニュールンベルグ裁判」を経た後、“東西ドイツの分断”という大きな悲劇が待っていた。そのうえ、米ソによる「東西冷戦」が始まる中、長い間「ベルリンの壁」で苦しむことになった。ベルリンの壁の崩壊は、戦後約45年を経た1989年11月9

日のことだ。

それに対して日本は、天皇陛下の“人間宣言”や新憲法の制定を経て、1951年の「サンフランシスコ講和条約の締結（単独講和）」で独立を回復した。1950年から1953年の「朝鮮戦争特需」もあって日本の経済復興のスピードは早く、1964年には、東京オリンピックを開催したから、すごい。その後1967年は私が大阪大学に入学した年だが、さらに、1970年に開催された大阪万博には、三波春夫が歌った「世界の国からこんにちば」の通り、世界中から多くの観客が押し寄せた。しかし、その間フィリピンのルバング島では？

小野田と小塚は長い間、士官と兵隊という関係だけでなく、親子・兄弟以上の信頼関係で結ばれていたが、最後にその小塚も失うと、小野田の気力と体力が急速に萎えていったのは仕方ない。そんな中、大音量で響く“懐かしい歌”と「戦争は終わりました、小野田さん。出てきてください。」と叫ぶ鈴木の声に小野田は・・・？まさか、ホンモノの小野田が軍服姿と銃を持って自分の目の前に立っているとは！鈴木自身が信じられないそんな光景が本作最大のポイントだが、その演出は如何に？そして、何よりもその約30年間の日本とルバング島の落差は如何に？さらに、ルバング島で一晩を超えて生きてきた小野田の思いは如何に？

■□■戦いを継続？それとも帰国？その決断の拠り所は？■□■

本作最大のハイライトは、1944年に概ね20歳でルバング島に入り、1974年の今は概ね50歳になっている、津田寛治演ずる小野田がはじめて鈴木と対面するシーケンスだ。日本は今なお戦争中だと思いつけている小野田が目前に見る鈴木は、まるで宇宙人のようだったはず。しかし、彼の話を聞けば聞くほど筋は通っている。もし、本当にそうだとすれば、自分はどうすればいいの？

1974年2月20日、ジャングル内で孤独に苛まれていた小野田との接触到成功した鈴木が、日本が敗北した歴史や現在の状況を説明して帰国を促したことを受けて、小野田が示した回答は、「直属の上官の命令解除があれば任務を離れることを了承する」というものだった。もちろん、小野田にとっての直属の上官とは、陸軍中野学校の教官だった谷口少佐のことだ。それを受けた鈴木は、谷口を訪れてルバング島への同行を求めた上、何と下記の文語文による山下奉文陸軍大将名の「尚武集団作戦命令」と、口達による「参謀部別班命令」で任務解除・帰国命令を準備したからすごい。

- 一 大命ニ依リ尚武集団ハスヘテノ作戦行動ヲ解除サル。
- 二 参謀部別班ハ尚武作命甲第2003号ニ依リ全任ヲ解除サル。
- 三 参謀部別班所属ノ各部隊及ヒ関係者ハ直ニ戦闘及ヒ工作ヲ停止シ夫々最寄ノ上級指揮官ノ指揮下ニ入ルヘシ。已ムヲ得サル場合ハ直接米軍又ハ比軍ト連絡ヲトリ其指示ニ従フヘシ。

-第十四方面軍参謀部別班班長 谷口義美

これなら完璧だ。その命令を受けて静かに敬礼した小野田少尉の心中は如何に？フランス人監督の見事な演出に拍手！

■□■帰国後の小野田の活動は？■□■

日本と韓国の間では「慰安婦問題」と「徴用工問題」が長い間懸案になっており、今なお解決していない。それと同じように、小野田少尉についても、日本の敗戦を認め、帰国を決意しても、フィリピン軍司令官に軍刀を渡し、降伏の意思を示した時点で処刑される可能性があったはず。だって、彼は終戦後も多くの現地住民の物資を奪い、殺傷を繰り返しながら生き延びていたのだから。日本政府とフィリピン政府の間で“その処理”がどうなったのかは本作では描かれないから、自分でしっかり調べる必要がある。

他方、1974年3月12日に帰国を果たした小野田さんのその後の生活は？活動は？それについては、一方では「軍人精神の権化」、「軍国主義の亡霊」等の批判もあったが、彼は彼なりの筋を通してきたい。そして、帰国の半年後に実兄のいるブラジルに移住する中でさまざまな活動を続けているので、それもじっくり確認したい。彼が死亡したのは2014年1月16日、91歳の時。やはり、あの時代の日本人（軍人）は生命力が強かったのだろう。合掌。

2021（令和3）年10月29日記